



1・2月の まちのわだい

▲1月29日(金)、スポーツセンターでシルバー学級の1月例会が行われました。今回は、土幌町の高齢者の生涯学習団体である「土幌町柏樹大学」とレクリエーション交流を行い、参加者らはボールを使った軽い運動やビンゴゲームなどをして、楽しく交流を深めました。



ジャンボ滑り台



幼児・低学年お宝ひろい

今回は、JA上士幌町と町商工会の両青年部が制作したジャンボ滑り台がお目見えしたほか、同青年部によるスノーラフティング体験、景品やお菓子が当たるレクリエーションなどが行われ、青空に子どもたちの歓声が響き渡りました。
また、会場では豚丼やホットミルクなどの飲食物の無料提供も行われ、友だち同士で仲良く食事する様子が見られました。

1月25日 上高吹奏楽部演奏会 in 上士幌小

上士幌高校吹奏楽部が上士幌小学校の体育館で演奏会を行いました。
小学生に人気のあるアニメの曲を織り交ぜながら演奏が行われ、妖怪ウォッチのテーマ曲『ようかい体操第一』では、小学生と高校生が一緒に踊って盛り上がりました。

1月18日 18歳選挙権、上士幌高校で模擬選挙

上士幌高校で選挙学習が行われ、2・3年生が模擬投票を体験しました。今年6月に選挙権年齢が18歳以上へ引き下げられることから、高校生に政治参加への関心を持ってもらおうと教員らが企画し、町選挙管理委員会事務局の協力により実施されました。
生徒たちは実際の選挙で用いられる記載台や投票用紙などを使って、架空の政党や候補者に投票しました。また、模擬投票後は選挙事務局職員が選挙の流れや選挙運動、投票の留意点などについて講義を行いました。
2年生の池田未弥乃さんは「若者の選挙離れという言葉を耳にする。将来の世代のために若い人がもつと選挙に行くべきだと思つ」と話し、投票の重要性を学んだようでした。



1月23日 滑り台やゲームに歓声、子ども冬まつり

認定こども園北側の町有地にて、第34回子ども冬まつりが行われ、子どもや大人合わせて約300人が集まりました。



また、演奏会後には楽器体験も行われ、児童たちは高校生に教わりながら演奏を楽しみました。

1月27日

上小・黒沼さん、サッカー選抜全道大会出場



サッカーの北海道トレセンU11冬季交流大会(8人制)に出場する上士幌小学校5年・黒沼大翔さんが教育委員会を訪れ、馬場教育長へ意気込みを語りました。
黒沼さんは「ミスをしないうように気を付け、得点をたくさん取ってチームに貢献できるよう頑張りたい」と力強く目標を話しました。



平成28年ひとり暮らし高齢者親睦会

1月28日(木)、山村開発センターで「ひとり暮らし高齢者親睦会」(上士幌町社会福祉協議会主催)が行われました。会場には一人暮らしの高齢者約130人が出席し、上士幌中学校の1年生35人がボランティアとして参加しました。
出席した高齢者たちは、三味線集団「Muじょん」らによる津軽三味線のステージを鑑賞したほか、中学生らと会話や食事を楽しみました。



「まちのわだい」のコーナーでは、みなさんからの楽しい話題や情報をお待ちしています。
企画財政課情報交流担当 ☎2-4290 または E-Mail ☉kikakuzaiseika@town.kamishihoro.hokkaido.jp まで、お気軽にご連絡ください。

2月3日

元氣よく鬼退治、認定こども園豆まき

2月3日の節分に合わせて、認定こども園で豆まきが行われました。鬼に扮した職員が遊技場に登場すると、園児たちは「鬼は外、福は内」の掛け声とともに元氣よく豆を投げつけました。鬼が退散すると園児たちからは「やった」と歓声が上がりました。



役場の新人紹介

(地域おこし協力隊員)
～みなさんはじめまして!～



- ①宮崎 七奈衣(26歳)
- ②観光振興推進員 (商工観光課)
- ③静岡県

イベントなどを通して、多くの方に上士幌町の自然の魅力をお伝えできるよう、努力いたします。どうぞよろしくお願いたします。

①氏名(年齢)②担当業務③出身地

北門小・泉田さん、ノービススケート出場



第2回全日本ノービススピードスケート競技会(札幌市)の小学6年女子500メートルおよび1000メートルに出場する北門小学校6年・泉田真愛さんが教育委員会を訪れ、大会の意気込みを語りました。

2月10日・19日

民生委員二人へ社会福祉関係功労者表彰

民生委員児童委員として10年以上在籍し、地域福祉の向上と民生の安定に尽くされた功績により、ぬかびら源泉郷の河田充さんおよび11の1区の伏見二三子さんへ「社会福祉関係功労者等十勝総合振興局長表彰」が贈られました。

民生委員としての活動以外にも、河田さんは町内会における地域貢献活動を、伏見さんはボランティア団体に所属し積極的に地域貢献活動を行っていることが高く評価されました。

2月10日、十勝総合振興局長に代わり、千葉副町長から河田さんへ、同19日には、竹中町長から伏見さんへ表彰の伝達が行われました。

二人は、「これまで民生委員を続けてこられたのは

地域のみなさんご支援、ご協力のおかげであり、たいへん感謝しています。今後も地域の人々と関わり、福祉の向上に努めていきたい」と話していました。



2月12日

すずらん荘でアイスクャンドル点灯式



特別養護老人ホーム上士幌すずらん荘の中庭で、アイスクャンドルの点灯式が行われました。3回目となる今年は、「ほっこり仲間の会」の協力により、アイスクャンドル430個とロウソク500個を作製しました。

当日は風もなく、アイスクャンドルすべてに火がともると、すずらん荘の入居者から歓声が上がりました。点灯後は、甘酒を飲みながら幻想的なロウソクの明かりを鑑賞しました。

ボランティア実践校交流会

上士幌小学校で第25回(平成27年度)ボランティア実践校交流会が開催されました。この交流会は、町内全4小学校の高学年児童が日ごろのボランティア活動の内容や感想を発表し合い、交流と情報交換を図るため毎年行われています。

児童らは、募金やごみ拾い、空き缶のリングプルやペットボトルのエコキャップ収集など、各学校で行っているボランティア活動を模造紙やパソコンのスライドショーにまとめ、発表しました。

発表では、「困っている人を助けられるのはうれしい。中学校に入っても活動を続けていきたい」「ごみ拾いをしてみたい、たばこの吸い殻が多く捨てられていることが分かった。ポイ捨てをしないよう携帯灰皿を持つよう呼びかけるポスターを作りたい」などの声が聞かれ、ボランティアへの関心が高まったようでした。



「もっと伝えたい、もっと知りたい上士幌フェア」が東京・大阪で開催されました!

「都市と農村の交流」をテーマに特産品の販売や移住相談などを行う「もっと伝えたい、もっと知りたい上士幌フェア」が1月24日(日)に大阪、同30日(土)に東京で開催されました。

昨年、わが町へふるさと納税をされた関西や首都圏在住の方を招いて開かれたもので、大阪会場には約700人、東京会場には約1,700人の寄付者が来場されました。

会場では十勝ナイタイ和牛や十勝ハーブ牛、アイス工房ドリームのゼラートなど、わが町を代表する特産品が食べられるイートインコーナーのほか、ミルクジャムやはちみつ、加藤農場さんのジャガイモなどを並べた物販コーナーが設けられ、人だかりができるほどたくさんのお客さまでにぎわいました。

今回は寄付者の方々に上士幌町の魅力をより深く知ってもらおうと、前回の「ふるさと納税大感謝祭」以上に町の紹介や上士幌を感じられる体験コーナーに力を入れ、相談コーナーではわが町への移住・定住やお試し暮らしを積極的にPRしました。



▲牛の乳搾り体験コーナー



▲上士幌町自慢の特産品が並ぶ物販コーナー



▲上士幌豚を使用した十勝名物「豚井串」の販売

また、東京のフェアには、総務相時代にふるさと納税を提起したことで知られる菅義偉官房長官が来場し、わが町のふるさと納税を活用したまちづくりへの取り組みについて視察されました。菅氏は「都会と地方がふるさと納税というツールを使ってお互いに理解を深めていくことは本当に素晴らしいし、国民の絆につながっていく」とあいさつされました。

同じく東京のフェアに参加された井上さんご夫妻(江東区在住)は「かつて仕事で帯広に住んでいたことがあり、タウシュベツ川橋梁やニペソツ山など上士幌の観光地にも行ったことがあります。今日はゼラートが美味しかったし、子育てなど寄付の使い道が分かって良かったです」と話していました。



▲移住や雇用、子育て支援などの相談コーナー



▲上士幌のシンボル、熱気球(ゴンドラ)の体験搭乗

町民(文)芸

短歌

もう一つ向こうの角と万歩計
口答えすると説教倍返し
マッチ一本薪ストーブを目覚めさせ
病む父が元気に戻る春を待つ
仕事終え自分に戻る手弁当
頑張った自分に褒美の桜咲く
牛元氣ばくも元氣で春がくる
人形の仲睦まじいひな祭り
台所母といっしょに立てる幸
ケイタイで恋人よりも長く居り
若い日に勉強しないで今苦勞
生きるとは喜び悲しみみんな抱き
暴走を止める一票しかと持つ

川柳

ハンドルを握るわれの眼射る新雪積る十勝野行けば
六人のそれぞれ認む色紙貼り郵便局のロビーを飾る
今日の診断帯広病院へ取り敢へず仕度もそこ息子の車にゆく
腸閉塞のうたがい聞きて夫を思ふ終日点滴に痛みうすらぐ
蜜柑二ヶ机上にありて終りとふ二ヶとも甘し惜しみいただく
己が顔うつるをみつ七階にたちまち着きぬエレベータを出す

白桜丹奈松米高小米鈴小薮坂
石 後代田森木池森木松根田
花昭喜理真誠由博 義 いさ子
馨絵次子恵弓也子樹豊美守子

本 高 石
間 木 川
栞 慶 裕
風 子 子



○ウインターバルーンミーティングを取
材しました。今年は時折強風が吹く場面も
ありましたが、開催2日間とも快晴に
恵まれ、熱気球のカラフルさが空に映
える大会となりました。○また、熱気
球に乗って上空から町内を見渡すと、
雪化粧した大雪の山々や畑がとてもき
れいに感じられました。夏の大会もど
うか好天に恵まれますように！・・・S
○広報担当になり、もうすぐ1年。早
かったような、でも長かったような…。
年を重ねると、時の経過が早く感
じますよね。これまでの人生の年数に
対する割合で、そう感じるようです。
また、忙しかったり、楽しかったり
と、時間の経過を意識することが少
ないと、また時間は早く感じるそ
うです。何はともあれ、これからも
よろしく申し上げます・・・K

広報 **かみしほろ** 4月号は 3月25日(金) 発行予定

平成28年1月末現在の人口

男性	2,377人(+6人)
女性	2,514人(-1人)
人口	4,891人(+5人)
世帯数	2,396世帯(-1世帯)

平成27年度 ふるさと納税寄付金

1月分	12,309件 285,065,944円
累計	70,143件 1,455,118,269円

※全国より本町に篤志寄付の応援をしていただき心より感謝を申し上げます。

- 上士幌町民憲章
- 心もからだもきたえ、すこやかな人にならなう。
 - おたがいに立場を理解しあい、楽しい家庭をつくりましよう。
 - きまりを正しく守り、明るい社会をつくりましよう。
 - 自然を愛し、美しく住みよいまちにそだてましよう。
 - 文化をたかめ、豊かな郷土を築きましよう。

地域を変えてく新しいカ 地域おこし協力隊活動報告

TITLE: はじめまして

記: 社会教育推進員 阪口 香菜代



平成28年1月より、「社会教育推進員」として働かせていただいている、阪口香菜代と申します。

私は、今まで宮崎県、鹿児島県の南九州地域で、小中高生の学習指導や高齢者を中心としたパソコン教室で学びをサポートする仕事をしてきました。「今まで『できない』と思っていたのに、頑張ったからできるようになった！」という達成の高揚感や心のほっとする瞬間を一緒に共有させていただくことが大好きで働いてきました。

上士幌に来て一か月が経ちました。毎日幸せな発見があります。雪道を歩くときのシャリシャリという感触の新鮮さ、転倒したときの恐ろしさ、降りたての雪のシーンと張りつめた感覚、その中で協力して冬の厳しさを楽しみに変えていく人々の知恵や温かい言葉遣い、自ら進んで率先垂範しようとする言動など、多くの素敵な瞬間を得られました。

近ごろ、夏目漱石の小説『三四郎』の一節を思い出します。「熊本よりも、東京よりも、日本よりも、頭の中のほうが広いでしょう……」。

熊本から上京する青年(三四郎)が、汽車の中で掛けられた言葉です。広大な自然の中でみなさんと一緒に多様な可能性を探求し、成長していけるよう貢献させていただきたいです。よろしくお願ひします。



▲最近の活動①「第34回子ども冬まつり」



▲最近の活動②「士幌町柏樹大学との交流(シルバー学級)」

上士幌高校新聞局通信 月刊 上高

2月6日(土)〜7日(日)
交流深められた冬の大会



2月6日(土)から7日(日)にかけて、上士幌町にある航空公園にて「第34回上士幌ウインターバルーンミーティング」が行われました。夏の大会と比べ、参加チーム数は少なかったものの、各気球はターゲットを目指して熱心なフライトをしていました。

▲一斉に離陸する熱気球
初日は7時30分よりタスクフライトが始まり、航空公園から熱気球が一斉に離陸していきました。しかし、9時ごろになると風が強くなり、飛んでいる気球は上高も含めわずか2機でした。17時30分からは、上士幌町役場のすぐ横にある山村開発センター大ホールで交流会が行われ、各バルーンニストらは明るく話をしたり、料理に手を伸ばしたりするなどとても和やかな雰囲気の中、交流を深めました。

二日目は午前中に競技が行われ、多数の熱気球が上空に舞い上がりましたが、その後天候が悪化したため、途中からは1機もフライトをしていない状況となりました。

上士幌高校熱気球部は総合5位という結果でしたが、熱気球部部員にとってさらに成長することができた大会だったと思います。

文責 塚本 好輝

Monthly Kamishihoro High-School